

令和4年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「明るく、たくましく、心爽やかな」国際社会に貢献できる人材を育成し、地域に信頼され、誇りとされる学校をめざす。

—アクション、シンキング、チームワークですべての子供たちの可能性を最大限に引き出します—

1. 夢・目標を主体的に見つけ、進路実現に向けて積極的に取り組む生徒を育てる。
2. 知的好奇心が旺盛であり、自ら考え学ぶ姿勢を持った生徒を育てる。
3. 集団の中での義務と責任を認識し、集団の一員として貢献する意欲のある生徒を育てる。
4. 他人の立場や周りの人の気持ちを考え、行動できる生徒を育てる。

2 中期的目標

1. 確かな学力の育成

(1) 「主体的・対話的・深い学び」を追究し新しい時代に対応できる「知識・技能」の習得、「思考力・判断力・表現力」「学びに向かう力・人間性等」の育成に取り組む。

ア 学校としての「生徒に育成したい資質・能力」、「めざすべき生徒像」について、全教員で共有し、授業を軸にその実現へ向かう。

※学校に期待される社会的役割【スクールミッション】やそれに基づく【スクールポリシー】(グラディエーションポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシー)の策定に向けた検討に着手する。

イ 学力向上委員会を中心に相互授業観察、研究授業などの計画的実施、授業アンケートの効果的活用など、学力向上に組織的に取り組む。又、ICT機器を効果的に取り入れ個別最適な学びと協同的な学び、一斉学習を併存的に展開するなど学びの深化を図る。

※学校教育自己診断(生徒)における授業満足度の肯定的回答(R1 58%、R2 68% R3 74%)を令和6年度まで65%以上を維持する。

ウ 新学習指導要領に対応した特色ある教育課程を追究する。

2. 夢と希望を持ち、進路実現に積極的に取り組む生徒の育成

(1) 生徒の希望する進路の実現に向けて、計画的な進路指導体制を確立する。

ア 3年間を通じた継続的かつ計画的に進路指導に取り組み、大学・短大、専門学校および職業などについてキャリア教育を行う。

イ 3年間を通じた計画的な講習の実施により、早期からキャリア形成を見通し努力させる。

※実力考査の結果の分析を行い、学習支援クラウドサービスなどを活用し継続的な進路指導を行う。

※学校教育自己診断(生徒)における進路に関する情報提供の肯定的回答(R1 74%、R2 82% R3 87%)を令和6年度まで80%以上を維持する。

(2) 各授業、HR、「総合的な探究(学習)の時間」や学校行事などを通じ、探究的に学び表現力を向上させる機会を確保しキャリア発達を促す。

(3) グローバル人材の育成

ア 国際関係機関との連携や海外の学校との友好交流、SDGsの視点を踏まえた授業やHR、「総合的な探究(学習)の時間」、特別活動等の実施を奨励し、国際理解教育を推進する。

※学校教育自己診断(生徒)における「授業や行事で国際理解について学ぶ機会がある」の肯定的回答を(R2 57% R3 63%)令和6年度まで60%以上を維持する。

3. 安全安心で魅力のある学校づくり

(1) 規範意識を醸成する等、個々の生徒への支援体制を充実させ社会構成員としての自覚を促す。

ア 朝の職員連絡会やSHRを通して、生徒の状況を把握、教員間で共有し、望ましい生活習慣、生活規範の確立に向けた指導を行う。

イ 関係機関との連携にて校内支援体制を充実させ、すべての生徒の学びと育ちを支援する。

ウ 互いの違いを認め合い、「ともに生きる」精神を育成し、学校に来るのが楽しいと感じる環境を作る。

※学校教育自己診断(生徒)における人権について学ぶ機会の肯定的回答(R1 74%、R2 86%、R3 89%)を令和6年度まで80%以上を維持する。

※1月末段階での遅刻(R1 3,676件、R2 2,381件、R3 1,430件)を令和6年度まで2,000件以下を維持する。

※学校教育自己診断(生徒)における「先生は悩みごとや相談ごとを聞いてくれる」の肯定的回答(R1 70%、R2 77%、R3 82%)を令和6年度まで75%以上を維持する。

※学校教育自己診断(生徒)における「学校へ行くのが楽しい」の肯定的回答(R1 74%、R2 77%、R3 80%)を令和6年度までには80%程度を維持する。

(2) 特別活動や生徒会活動を活性化させ生徒の自己肯定感を醸成するとともに、集団や学校への帰属意識を高める。

ア 部活動や文化祭、体育祭などの生徒の自主的な活動を活性化させるとともに協働にて取り組む内容を充実させる。

※学校教育自己診断(生徒)における「文化祭は楽しく行えるよう工夫されている」の肯定的回答(R1 63%、R2 75% R3 82%)を令和6年度まで70%以上を維持する。

※学校教育自己診断(生徒)における「体育祭は楽しく行えるよう工夫されている」の肯定的回答(R1 49%、R2 59%、R3 78%)を令和6年度まで60%以上を維持する。

※生徒向け修学旅行アンケートにおける満足度の肯定的回答(R1 93%、R2 95% R3 97%)を令和6年度まで90%以上を維持する。

(3) 生徒が安全に安心して学校生活を送ることができるよう保護者との連携および環境の整備を行う。

ア 保護者との連絡を密にし、生徒が安全・安心に学校生活を送られるようにする。

イ 美化活動等の環境整備

ウ 「防犯及び防災計画」を点検し、天災や火災、侵入者などの危機管理体制を充実させる。また、保健所や学校医との連携を深め、新型コロナウイルス感染症に係る対応の充実を図る。

※学校教育自己診断(保護者)における「家庭への連絡や意思疎通」(R1 59%、R2 75% R3 79%)を令和6年度まで75%以上を維持する。

※学校教育自己診断(職員)における「事故・事件等に迅速・適切に対応」(R1 82%、R2 88% R3 70%)を令和6年度まで85%以上を維持する。

4. 地域・保護者と連携した学校づくり

(1) 広報活動を活性化し、本校の取り組みを中学生や保護者、地域に発信する。

ア Webページおよびブログを定期的に更新し、本校の取り組みを地域・保護者に発信する。

イ 本校で実施する学校説明会をさらに充実させると共に、外部の学校説明会などにも積極的に参加する。

※学習支援クラウドサービス登録者(R1 66%、R2 100% R3 100%)の在籍者に対する割合を100%とする。

(2) 地域との連携に取り組む

ア KEYS(貝塚警察署との連携した活動)等のボランティア活動を継続発展させる。

イ 地域の学校等との連携を活発に行う。

(3) 保護者向け進路説明会の実施および保護者への進路情報の提供

ア 保護者向け進路説明会の内容を充実させ、保護者が参加しやすい説明会を企画、実施すると共に、進路情報を積極的に発信する。

※学校教育自己診断(保護者)における進路に関しての情報提供(R1 55%、R2 57%、R3 66%)を令和6年度まで60%以上を維持する。

5. 教職員の資質向上と意識改革

(1) 個々の教員が学校運営に参加する意識をもって業務にあたる。

<p>ア 運営委員会が中心となり同僚性を高め、校内での情報共有や意思統一を図り組織目標の達成を行う。</p> <p>イ ICT 機器を効率的に活用し、さまざまなデータの共有・情報共有を行うと共に、事務作業、会議運営の効率化等を図り、生徒と向き合う時間を確保する。</p> <p>(2) 校内での教職員研修を積極的に行うと共に、外部で実施される研修等の内容を校内で共有する。</p> <p>ア 教職員の資質向上をめざした研修を計画的に実施する。</p> <p>イ 校外での研修などにより、積極的に情報を収集するとともに校内での周知を行う。</p> <p>(3) 働き方改革の取組みを行い、職員が生徒と向き合う時間を増やす。</p> <p>ア 働きやすい職場環境の整備につとめると共に、風通しがよく、働きがいのある組織作りを進める。</p>
--

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 [R3年度値]	自己評価
1 確かな学力の育成	<p>(1) 「主体的・対話的・深い学び」を追究した学力向上</p> <p>ア 「生徒に育成したい資質・能力」、「めざす授業」の実現に向けて</p> <p>イ 学力向上をめざした取組み</p> <p>ウ 授業アンケートの効果的活用</p> <p>エ ICT 機器を効率的に活用した授業の研究・実施</p> <p>オ 自学自習の推進</p> <p>カ 図書館の活用と読書活動の推進</p> <p>キ 特色ある教育課程の充実</p>	<p>(1)</p> <p>ア 「生徒に育成したい資質・能力」、「めざすべき生徒像」を全教職員で共有し、授業力の向上を軸に実現に向かう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学力向上委員会等にてスクールミッションやスクールポリシーの策定に向けた検討に着手する。 <p>イ 授業力向上の取組み(研修、相互授業観察、研究授業など)を計画的に実施する。</p> <p>ウ 授業アンケート実施後、「授業アンケート結果分析シート」を活用するなど、各教員が結果を分析し、授業改善に努める。</p> <p>エ クロームブックを有効に活用するなど ICT 機器を活用した授業改善について研究を深め実践する。</p> <p>オ 授業を通じて教科・科目の学習への興味、関心を高め、自ら学ぶ姿勢を身に付けさせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の生活実態を把握し、ICT の活用を促進するなど授業以外の学習時間を確保し、学力の向上を図る。 ・自習室の積極的な活用を推進する。 <p>カ 図書室の積極的な活用、図書委員活動を活性化させるなど、「第4次大阪府子ども読書活動推進計画」に沿って読書活動を推進する。</p> <p>キ 新学習指導要領に対応した教育課程の充実を図る。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 授業アンケートの結果平均ポイントを昨年並みとする。[3.22]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スクールミッションやスクールポリシーの策定に向けた検討に着手する。 <p>イ 教員相互の授業観察を年間延べ100回以上[113回(1/未)]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研究授業を年間延べ5回[16回]。 <p>ウ 学校教育自己診断(生徒)の「授業が分かりやすい」の肯定率65%以上 [74%]</p> <p>エ 学校教育自己診断(生徒)の「視聴覚教材やICTが効果的に活用されている」の肯定率70%以上 [84%]</p> <p>オ 自主的に学習する習慣を高める。</p> <p>基礎学力調査(9月実施分)の1日あたりの学習時間1時間程度以上の割合1年35%以上、2年25%以上[1年31.6%、2年22.1%]</p> <p>カ 校内読書感想コンクールの継続実施。図書委員の活動を年間20回以上[20回]。図書室の活用を奨励</p> <p>キ 学力向上委員会や教育課程委員会等において教育課程および評価方法の深化を図る。</p>	

<p>2 夢と希望を持つ生徒育成</p>	<p>(1) 生徒の希望する進路の実現 ア 3年間を通して進路指導に取り組む イ 生徒情報の共有 ウ 計画的な講習の実施 (2)コミュニケーション能力の育成 ア 協同的な学びや発表機会の充実 (3)グローバル人材の育成 ア 国際理解教育の推進</p>	<p>(1) ア・3年間を見通した進路指導計画を作成、生徒、保護者とも共有し都度キャリア発達を促す。・進路便りの発行など保護者との情報共有にも努める。 イ・定期考査、基礎学力調査などの結果から生徒の学力推移を分析し、学習支援クラウドサービスを活用するなど学年、教科、分掌間で情報共有し進路指導に活かす。 ウ・進路目標達成に向け、教科、分掌、学年の連携を深め進学や就職のため多様なニーズに対応できる説明会や講習等を計画、実施する。 (2) ア・各授業、HR、総合的な探究(学習)の時間、学校行事などを通じて、班活動の実施や生徒が発表する機会を増やし論理的思考力、探究力、表現力を育む。 (3) ア・国際交流、SDGsの視点を踏まえた授業や、HR、「総合的な探究(学習)の時間」、特別活動等の実施及び関係機関と連携し異文化に触れる機会を確保する。</p>	<p>(1) ア・HR等を活用した学年全体での取組み(外部講師による講演を含む)を昨年並みとする。[R3 1年6回2年7回、3年12回] イ・学校教育自己診断(保護者)の「将来の進路や職業について適切な指導」の肯定率65%以上[69%]。 ・学校教育自己診断(生徒)の「進路に関する情報が十分提供されている」の肯定率80%以上[87%] ウ・進学講習は全体で100回以上[376回(1月末)]を実施。教育支援クラウドサービスによる学習動画、WEBドリル等の活用を加えて、より個人の状況に合わせた指導を進める。 (2) ア・学校教育自己診断(生徒)の「自分の考えをまとめたり、発表したりする授業がある」の肯定率70%以上[78%] (3) ア・学校教育自己診断(生徒)の「授業や行事で国際理解について学ぶ機会がある」の肯定率60%以上[63%]</p>	
--------------------------	--	--	---	--

<p>3 安全安心で魅力のある学校づくり</p>	<p>(1) 生徒の規範意識の醸成と支援体制の充実 ア 子ども理解(アセスメント)力を充実させ、生徒の規律性を育む。 イ 教育相談・支援体制の充実 ウ 互いの違いを認め合い、「共に生きる」精神を育成する。</p> <p>(2) 特別活動を通じ、豊かな高校生活を実現させる ア 部活動入部率の向上と部活動の活性化 イ 学校行事の活性化</p> <p>(3) 保護者との連携および環境の整備 ア 保護者との連携 イ 美化活動等の環境整備 ウ 防犯および防災、新型コロナウイルス対策の充実</p>	<p>(1) ア・全教育活動を通して生徒理解に努め、正確な生徒情報の共有を図ると共に、成長や支援ニーズのアセスメントとそれに基づくプランニングを充実させ登校指導や遅刻、服装、頭髪指導などより効果的な規律指導を行う。 イ・SC、SSW、関係機関などとの連携を強め、個に応じた支援の充実を図る。 ウ・自尊感情と多様な個性、ともに生きる社会を理解できる人権教育を推進する。 ・いじめ事象の発生・深刻化を防ぎ、いじめを許さない生徒を育成する。</p> <p>(2) ア・新入生対象の部活動紹介や体験入部を通じ、部活動入部率の向上と部活動の活性化を図る。 イ・郊外学習、体育祭、文化祭などの内容について検討し、より充実させる。</p> <p>(3) ア・日常的に家庭との連絡を充実させ、協同にて生徒理解に努め、最適な支援に努める。 イ・環境美化への意識を高め清潔で整備された教育環境を維持する。 ウ・「防犯及び防災計画」、新型コロナウイルス対策の内容を周知し、危機管理意識を向上させる。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断(職員)の「教員間での生徒に関する情報共有」の肯定率 90%以上[88%]。 ・生徒指導マニュアルを充実させる。 ・年間述べ遅刻回数 2,000 回以下。[1,430 回(1月末)] イ・学校教育自己診断(生徒)の「悩みごとや相談ごとを聞いてくれる」の肯定的率 70%以上[82%]。 ・就学支援会議、ケース会議の開催。 ウ・学校教育自己診断(生徒)の「人権の大切さについて学ぶ機会」の肯定率 80%以上[89%] ・学校教育自己診断(生徒)の「先生ははじめに真剣に対応」の肯定率 80%以上。[83%]</p> <p>(2) ア・1年生全員の体験入部を継続し部活動加入率 55%以上[58.7%] イ・学校教育自己診断(生徒)の「文化祭は楽しく行えるよう工夫されている」の肯定率 70%以上[82%]。 ・「体育大会は楽しく行えるよう工夫されている」の肯定率 60%以上[78%]。 ・学校教育自己診断(生徒)の「学校へ行くのが楽しい」の肯定的回答 80%程度を維持[80%]。</p> <p>(3) ア・学校教育自己診断(保護者)の「家庭への連絡や意思疎通を積極的に行っている」の肯定率 75%以上[79%] イ・学校教育自己診断(生徒)の「校舎内外の環境整備、美化」の肯定率 50%以上[59%]。 ・保護者との連携による美化活動の継続[0 回] ウ・学校教育自己診断(職員)の「事故事件に迅速、適切に対応」の肯定率 85%以上[70%]。</p>	
------------------------------	---	--	--	--

<p>4 地域・保護者と連携した学校づくり</p>	<p>(1) 広報活動の活性化 ア 学校 Web ページ、ブログによる情報発信 イ 学習支援クラウドサービスによる情報発信</p> <p>(2) 地域との連携 ア ボランティア活動の継続発展 イ 地域の学校等との連携</p> <p>(3) 保護者への進路情報の提供 ア 保護者向け進路説明会の実施 イ 保護者への進路情報の積極的発信</p>	<p>(1) ア・広報委員会が中心となり、オープンスクール等を継続すると共に、学校 Web ページやブログの情報更新を活発に行い開かれた学校づくりをより推進する。 イ・学習支援クラウドサービスを有効に活用し、よりタイムリーに保護者などへの情報発信を行う。</p> <p>(2) ア・KEYS（貝塚警察署との連携）等ボランティアの継続実施および内容の充実 イ・近隣の保育園での保育体験実習や防災避難訓練時の連携の継続及び部活動等を通じた地域との連携を充実させる。</p> <p>(3) ア・保護者向け進路説明会の内容を充実させ、保護者が参加しやすい説明会を企画する。 イ・進路だよりなどの配布とともに、学習支援クラウドサービスなど、ICT をより有効に活用し保護者などへの情報発信を充実させる。</p>	<p>(1) ア・様々なブログの更新合計、年間 100 回以上[113 回(3/15)]。 ・同窓会等との連携で学校 Web ページの刷新を図る。 ・学校説明会開催を継続させる。 イ・保護者懇談等を通じて、すべての保護者の登録を確認する。</p> <p>(2) ア・KEYS の活動を継続して実施する。[4 回]。その他ボランティア活動を推進する。 イ・保育体験実習を継続する。[5 回] ・防災避難訓練への協力を継続する。 ・部活動等で中学校や地域との連携した活動を維持する。[中学校 2 回 地域 3 回]</p> <p>(3) ア・学校教育自己診断(保護者)の「学校は将来の進路や職業について適切な指導を行っている」の肯定率 60%以上[69%] イ・学校教育自己診断(保護者)の「進路に関しての情報提供」の肯定率 60%以上[66%]</p>	
<p>5 教職員の資質向上と意識改革</p>	<p>(1) 個々の教員が学校運営に参加する意識をもって業務に当たる。 ア 教員間での情報共有を充実させるなど、チームで働く力を育み組織目標の達成を行う。 イ ICT 機器を活用し校務の効率化を図る ウ 危機管理体制の充実</p> <p>(2) 実効ある教職員研修の実施と相互授業見学や勉強会の充実、及び外部実施研修への積極的参加を奨励し学び続ける教職員を育成する。 ア ニーズに合った教職員研修の実施 イ 他校への授業見学等や研修会への参加</p> <p>(3) 働き方改革の取り組み ア 校務の見直し及び効率化 イ 働きやすい職場環境整備 ウ 安全衛生委員会の充実</p>	<p>(1) ア・口頭や ICT を併存的に活用し、よりタイムリーに教育情報の共有を図り同僚性を高め、学校力の向上に努める。 イ・GIGA スクールサポーターや外部人材、教員相互の支援体制を充実させ教職員の ICT 活用能力の向上に努め、校務の効率化に繋げる。 ウ・危機管理に対する様々なガイドラインの精読を日々喚起するなどし教職員間における危機管理意識の醸成を図る。</p> <p>(2) ア・教職員の資質向上をめざした教職員研修の実施と、教員相互における勉強会の実施 イ・他校への授業見学や研修会等への積極的な参加を奨励する。</p> <p>(3) ア・ICT の有効活用、校務分掌や委員会組織のスクラップ&ビルドなど「Society5.0」時代に対応できる学校組織の刷新を検討する イ・職場環境を整備すると共に、支え合う意識を醸成し温かい職場環境の構築をめざす。 ウ 各週 1 回の提示退庁日に加え、月 1 回の定時退庁日を設定し、放送にてアナウンスするなど定時退庁を促す。時間外超過勤務者とのヒアリングを充実させる。</p>	<p>(1) ア・学校教育自己診断(職員)の「校務に関する情報共有ができている」の肯定率 70%以上[67%]・その他、組織目標の共通理解を図り、教職員の学校運営への参加の意識を高める。 イ・学校教育自己診断(職員)の「ICT 機器や校務処理システムの活用により校務の効率を図ることができた」の肯定率 85%以上[88%] ウ・学校教育自己診断(職員)の「個人情報保護の観点から、生徒の個人情報に関する管理システムが確立している」の肯定率 80%以上[79%]</p> <p>(2) ア・教職員研修 10 回程度[7 回] ・勉強会 10 回程度[16 回] イ・他校への視察を 2 回以上[2 回]行い、校内での伝達を行う。</p> <p>(3) ア・分掌の統合など、校務の効率化のため検討をすすめる。 イ・ストレスチェック結果における職場のサポートを前年度より改善させる。【115】 ウ・時間外超過勤務者の年間累計数を減少させる。[9 名、2/末]</p>	